

# 書評 新刊 紹介



環境の中の毒—アオコの毒とダイオキシン—  
彼谷邦光著 裳華房刊 147 ページ  
定価 1442 円 1995

本書は、環境中で制御が困難で、かつ毒性がきわめて強いアオコの毒とダイオキシンについて、それらの性質、毒性、環境中での挙動などについて、わかりやすく解説したものである。

著者の彼谷博士の専門は天然物有機化学であるが、有害物質の生体への作用機構にも造詣が深く、環境と有毒物質に係わる分野をリードする第一人者である。先生は、一本筋のおった人生観をもって研究生活を営んでおり、なにごとにも謙虚さをもちつつも、強い意志を示して対処しており、常日頃から、現在山積みしている環境問題の本質的な解決には柔軟な若い頭脳が必要であり、きたるべき21世紀が豊かな文明となるか破局の文明となるかは、ひとえに今、大学や高校でまなんでいる学生の双肩にかかっていると、考えている。本書は彼のこのような痛切な思いをこめて執筆したものである。

本書は、いきなり恐竜の絶滅と人類の将来という章からはじまることで、すこしびっくりするが、人類がこれ以上生物の絶滅の加害者とならないように、さらには第二の恐竜とならないように、アオコの毒とダイオキシンという例で訴えたいという著者の気持ちがよ

く理解出来る章である。第2章で毒素をつくる藍藻類について平易に説明しており、藍藻類はなぜ藍色の藻と呼ばれるのか、アオコはなにが嫌いかなど、読者の興味をそそる設問風の語りかけをしている。このような読者の興味をそそる語りかけは、第3章アオコの毒の性質、第4章アオコの毒の毒性、第5章環境中のマイクロシスチンとつづき、読者をあきさせず、一気に読ませてしまう。内容は本当にわかりやすいのみならず、アオコの毒をめぐる社会的あるいは行政的のどのような動きがあるのか、研究者が必死に競いあっている未知の部分はないか、も知ることができる。さらに代表的なアオコ毒であるマイクロシスチンの作用機構について著者独特の仮説を提示している部分は圧巻である。著者は、この本はあくまでも大学生や高校生を対象に書いたといいつつも、自分の専門以外はまったく素人同然の研究者も対象とし、あわよくば多くの研究者をアオコの毒の研究に参加させようというもくろみもあったのではないだろうか。このような偏見でダイオキシンの項を読んでいくと、たしかにそのようなもくろみを感じさせるところがあった。

「植物で(ダイオキシンの)生体濃縮が顕著に観察される例として、藻類がある。放射性同位元素で標識したTCDDを水に分散させ、藻類にとりこまれた放射能を測定すると、明らかに生体濃縮が観察されるというのである。ダイオキシンの藻類への取り込みや濃縮のメカニズムはどのようなものであろうか。植物生理学の立場からも興味深い研究分野である」

著者の挑発にのる学生や研究者が多くあらわれることを期待する。

渡辺 信 (国立環境研究所)



## Internet 藻類関連サイト

### Seaweed Information Server

(<http://seaweed.ucg.ie/seaweed.html>)

Michael Guiry, Tom Larkin の両氏が運営する海藻に関するページ。



*Heterodictyon erachnoideum* from Victoria, Australia, a multinucleate red alga with giant cells. Stained with DAPI, a fluorochrome specific to DNA.  
This page is brought to you by  
Michael Guiry and Tom Larkin

Algal Culture Collections, Books and Booksellers, Check-list of the Seaweeds (Benthic Marine Algae) of Britain, Ireland and northern Europe, Department of Botany, University College, Galway, Galway, Irish Seaweed, The Martin Ryan Marine Science Institute, Pictures of Galway Bay (Selection), Search Algal Databases including Database of Phycologists, Server statistics, Other sites of interest, University College, Galway などの項目を含んでいる。このなかの Algal Database Search (<http://seaweed.ucg.ie/search/searchchoice.html>) では、Guiry氏が運営するメーリングリストである ALGAE-L のメンバー、世界の藻類研究者の検索

ができるほか、British/European Journal of Phycology (1982-1995)、Phycologia (1961-1995) および Proceedings of the International Seaweed Symposia の掲載論文の検索ができる。